

## 岐阜県における地衣類調査(2015-1)：ハヤチネウメノキゴケの確認

2010年から岐阜県を中心に地衣類調査を続けている。岐阜県では地衣類はあまり調査が進んでいないこともあり、新種の地衣類の発見も期待されることから、高校生による課題研究のテーマとして、加茂高校や大垣東高校の理数科の生徒による研究を行ってきた。これと平行して岐阜大学でもwebサイト教材「進化する地衣類図鑑」の構築を進めている。

これまでに、アツミダイダイゴケ、コナキクバダイダイゴケ、サラゴケなど、国内新種を発見し、ウロコイボゴケ、オワリウメノキゴケ、キビノサラゴケなどの稀種を確認している。

最近、岐阜市周辺において、ウメノキゴケ科地衣類の再検討を始めた。岐阜大学において、県内では初めての確認となるハヤチネウメノキゴケを確認した。



*Myelochroa hayachinensis* (Kurok.) Elix & Hale. 地衣体の長径は3 cm程度。  
(2015年2月14日撮影)

ハヤチネウメノキゴケは、ウチキウメノキゴケ属に属する。ウチキウメノキゴケ属は、ウチキウメノキゴケグループと、チョロギウメノキゴケグループに分けられる。チョロギ

ウメノキゴケグループには3種が知られており、栄養繁殖器官を欠くチョロギウメノキゴケ、粉芽塊をつけるコフキチョロギウメノキゴケ、パステールをつけるハヤチネウメノキゴケである。

岐阜大学で確認されたハヤチネウメノキゴケは、灰白色でパステールをつけており、ヒカゲウチキウメノキゴケとよく似ているが、呈色反応で、C(-)、K+(黄色後褐色)であることで見分けることができる。裂片の腹面には黒色で単一の偽根を密生させる。髓層にはちよろぎ細胞がある。

吉谷ら(2014)によると、ハヤチネウメノキゴケは、既知の13地点に加えて、新たに6地点での確認を報告している。岐阜大学は、国内で20地点目の確認となる。

吉谷ほか(2014) *Lichenology*, 12, 67-70.